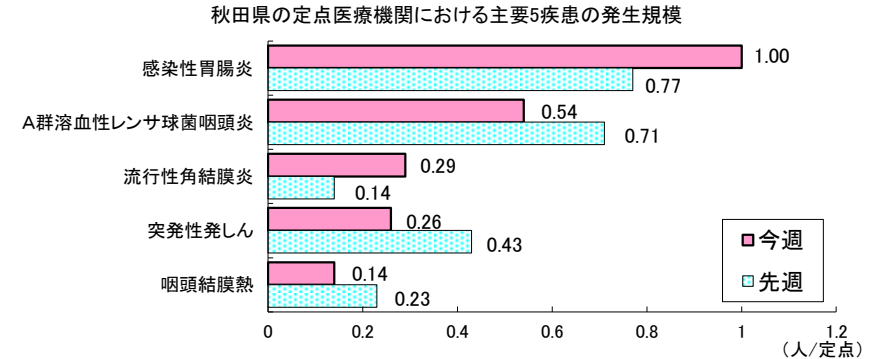




【第26週の発生動向】

<定点把握対象疾患(週報)・前週比>

1. 感染性胃腸炎は、県全体で1.3倍に増加しています。保健所別では、秋田市、大館、北秋田、秋田中央、大仙で増加、能代、湯沢で同規模、横手で減少しています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で24%減少しています。保健所別では、秋田市、湯沢で増加、由利本荘で同規模、北秋田、能代、秋田中央、大仙、横手で減少しています。
3. 流行性角結膜炎は、県全体で2.1倍に増加しています。保健所別では、秋田市で増加しています。



発生報告

<五類定点対象疾患(週報)>

疾患名	秋田県		秋田市			大館			北秋田			能代			秋田中央			由利本荘			大仙			横手			湯沢			
	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減	第25週	第26週	増減			
RSウイルス感染症																														
インフルエンザ																														
咽頭結膜熱	0.23	0.14	↘	0.43	0.29	↘	0.25		↘					0.25	↗	0.25		↘	0.50	0.50					0.25		↘			
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.71	0.54	↘	0.29	0.43	↗				0.50		↘	0.33		↘	1.25	0.50	↘	0.25	0.25		2.50	2.00	↘	0.33		↘	1.00	1.25	↗
感染性胃腸炎	0.77	1.00	↗	0.71	1.86	↗	0.25	0.50	↗		0.50	↗	2.33	2.33		1.25	1.75	↗				0.50	0.75	↗	2.00	0.33	↘	0.25	0.25	
水痘	0.03		↘	0.14		↘																								
手足口病		0.09	↗								0.50	↗					0.25	↗							0.33		↗			
伝染性紅斑																														
突発性発しん	0.43	0.26	↘	0.43	0.14	↘	0.75	0.75		0.50		↘		0.33	↗				1.00	0.75	↘	0.25		↘	0.33		↘	0.50	0.25	↘
ヘルパンギーナ																														
流行性耳下腺炎	0.03	0.03																				0.25		↘					0.25	↗
川崎病																														
急性出血性結膜炎										*	*		*	*		*	*											*	*	
流行性角結膜炎	0.14	0.29	↗	0.33	0.67	↗				*	*		*	*		*	*											*	*	
細菌性髄膜炎																*	*													
無菌性髄膜炎																*	*													
マイコプラズマ肺炎		0.13	↗													*	*						1.00	↗						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)																*	*													
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)																*	*													

(注) 表の数値は、観測定点としている県内の医療機関から報告された患者報告数を、1定点あたりに換算した人数を示し、前週と比べて「↗」は増加を、「↘」は減少していることを示します。  
「\*」印は、当該疾病に関わる定点医療機関が指定されていないことを、空欄は全ての定点で当該週における患者の報告数がなかったことを示します。



発生報告

<全数把握対象疾患>

- ・三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症が秋田中央保健所管内から2人、報告されました。
- ・四類感染症のE型肝炎が秋田市保健所管内から1人、つつが虫病が大仙保健所管内から1人、報告されました。
- ・五類感染症のウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)が大仙保健所管内から1人、梅毒が秋田市保健所管内から1人、能代保健所管内から1人、大仙保健所管内から1人、報告されました。

<全数把握疾患>

類型	疾患名	1週-25週		26週
		全国	秋田	秋田
一類	エボラ出血熱			
	クリミア・コンゴ出血熱			
	痘そう			
	南米出血熱			
	ペスト			
	マールブルグ病			
	ラッサ熱			
二類	急性灰白髄炎			
	結核	7972	41	
	ジフテリア			
	重症急性呼吸器症候群			
	中東呼吸器症候群			
	鳥インフルエンザ(H5N1)			
	鳥インフルエンザ(H7N9)			
三類	コレラ			
	細菌性赤痢	53		
	腸管出血性大腸菌感染症	638	11	2
	腸チフス	17		
	パラチフス	7		
四類	E型肝炎	240	1	1
	ウエストナイル熱			
	A型肝炎	73		
	エキノコックス症	7		
	黄熱			
	オウム病	4		
	オムスク出血熱			
	回帰熱	2		
	キャサナル森林病			
	Q熱			
	狂犬病	1		
	コクシジオイデス症	2		
	サル痘			
	ジカウイルス感染症	1		
	重症熱性血小板減少症候群	31		
	腎症候性出血熱			
	西部ウマ脳炎			
	ダニ媒介脳炎			
	炭疽			

類型	疾患名	1週-25週		26週
		全国	秋田	秋田
四類	チクングニア熱	3		
	つつが虫病	100	7	1
	デング熱	41		
	東部ウマ脳炎			
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)			
	ニパウイルス感染症			
	日本紅斑熱	90		
	日本脳炎	1		
	ハンタウイルス肺症候群			
	Bウイルス病			
	鼻疽			
	ブルセラ症	1		
	ベネズエラウマ脳炎			
	ヘンドラウイルス感染症			
	発しんチフス			
	ボツリヌス症	1		
	マラリア	12		
	野兎病			
	ライム病	4		
	リッサウイルス感染症			
リフトバレー熱				
類鼻疽				
レジオネラ症	625	6		
レプトスピラ症	1			
ロッキー山紅斑熱				
五類	アメーバ赤痢	279		
	ウイルス性肝炎(E型及びA型を除く)	124	1	1
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	728	6	
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)	15		
	急性脳炎	305	4	
	クリプトスポリジウム症	2		
	クワイツフェルト・ヤコブ病	64	1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	391	3	
	後天性免疫不全症候群	475	1	
	ジアルジア症	13		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	167		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	11		
	侵襲性肺炎球菌感染症	985	9	
	水痘(入院例に限る)	172	6	
	先天性風しん症候群	1		
	梅毒	2669	27	3
	播種性クリプトコックス症	59	1	
	破傷風	48	1	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症			
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	67		
百日咳	2525	9		
風しん	80			
麻しん	12			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	3			
指定	新型コロナウイルス感染症		16	

トピック

<ヘルパンギーナに注意しましょう>

ヘルパンギーナはエンテロウイルスを原因とする、いわゆる夏かぜの代表的な疾患です。例年7月~9月に患者報告数が増加します(図)。全国の定点あたりの患者数は、第25週において0.09と増加の兆しが見られています。秋田県は第25週、第26週の患者報告はありませんが、これから流行期をむかえますのでご注意ください。

■症状

患者の90%以上が5歳以下の乳幼児です。感染すると突然の発熱とともにのどの痛みが起こり、のど粘膜に発赤が見られます。また、口腔内に小水疱が出現し、それが破れて浅い潰瘍となり痛みます。発熱時に熱性けいれんを伴ったり、口腔内の痛みのため飲食・哺乳が困難となり、脱水症状などを起こすこともあります。通常、数日で軽快しますが、まれに無菌性髄膜炎などを合併することがあります。頭痛や嘔吐などの症状がある場合は注意が必要です。

■病原体

エンテロウイルス属のA群コクサッキーウイルスが主な原因ですが、B群コクサッキーウイルスやエコーウイルス等が原因となることもあります。エンテロウイルスには多くの型があるため、一度治っても違う型に感染を繰り返す場合があります。

患者の唾液や便に排出されたウイルスを、手指を介して鼻や口から摂取してしまうことで感染します。回復後も2~4週間は便からウイルスの排出が続きます。

■予防

予防対策としては、手洗いが有効です。また、栄養バランスのよい食事、十分な睡眠など、日常生活における体調管理も大切です。

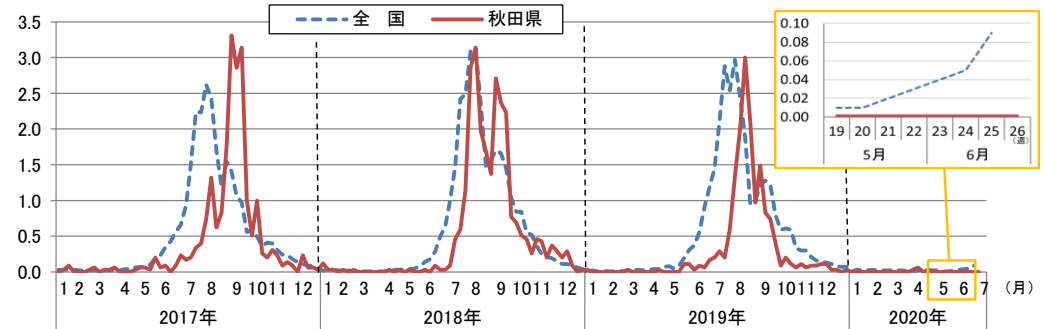


図 ヘルパンギーナの定点あたりの患者報告数

つつが虫病情報

つつが虫の発生報告が1件ありました。

事例No.	届出日	住所	年齢	性別	症状	感染経路(推定)
8	6/26	大仙保健所管内	60代	男性	発熱、発疹、刺し口(左下腿)	庭仕事



**【注意報・警報の発生状況】**

疾患名	注意報	警報
	保健所(発生規模)	保健所(発生規模)
注意報・警報はありません。		

■ 注意報・警報の定義

**【注意報・警報の定義】**

- 1) 注意報: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性があることを示し、流行の発生後であればその流行がまだ終わっていない可能性がある(終息していない)ことを示します。
- 2) 警報: 大きな流行の発生・継続が疑われることを示します。

対象疾患	注意報			対象疾患	警報		
	基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)		基準値(人/定点)	開始基準値(人/定点)	継続基準値(人/定点)
インフルエンザ	10	30	10	伝染性紅斑	-	2	1
咽頭結膜熱	-	3	1	ヘルパンギーナ	-	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	-	8	4	流行性耳下腺炎	3	6	2
感染性胃腸炎	-	20	12	急性出血性結膜炎	-	1	0.1
水痘	1	2	1	流行性角結膜炎	-	8	4
手足口病	-	5	2				

■ 保健所地域

保健所	所管市町村	保健所	所管市町村
大館保健所	大館市、鹿角市、小坂町	由利本荘保健所	由利本荘市、にかほ市
北秋田保健所	北秋田市、上小阿仁村	大仙保健所	大仙市、仙北市、美郷町
能代保健所	能代市、藤里町、三種町、八峰町	横手保健所	横手市
秋田中央保健所	男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村	湯沢保健所	湯沢市、羽後町、東成瀬村
秋田市保健所	秋田市		